

春に気をつけたい外来植物 「ナガミヒナゲシ」駆除のおすすめ

ナガミヒナゲシは、1961年に世田谷区で最初に発見された比較的新しい外来植物で、近年、千葉市内にも急速に広がっています。オレンジ色の花が可憐で美しいのですが、もとも地中海沿岸原産の雑草で、驚異的な繁殖力で生態系へ影響を及ぼす可能性もあるとのこと。



↑
当マンション内(駆除しました)

↑
近隣の道端

花と未熟な実の状態 →

一つの実に平均1600粒の種子が内蔵されており、一個体から100個の実をつけることもあるので、最大で一個体から15万粒の種子が生産され、未熟な種子でも生育するそうです。
駆除するときには、種を落とさないようにしてください。 ← 重要です。

見かけませんか

<農業環境技術研究所> 春に気をつける外来植物:ながみひなげし

<http://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/sinfo/publish/niaesnews/090/09003.pdf>

ナガミヒナゲシはアレロパシー活性が強く、雑草化リスクが大きいので、広がらないようにする必要があります。

アレロパシーとは、ある植物が作る化学物質が、他の植物・微生物・昆虫・動物などに、直接または間接的になんらかの作用を及ぼす現象。

アレロパシー活性を評価項目に含む改良FAO方式で評価すると、特定外来生物に指定されている植物に匹敵するか、むしろこれらを上回る高いリスク点数が得られました。

問合せ先: 千葉市緑化推進協議会 Email:c.ryokkasuisin@gmail.com TEL.090-6517-8555